

事業名：生活バス路線運行補助事業

政策推進課 参事（住環境活性化・公共交通）

政策	04 安全で快適な都市生活の充実								
施策	02 交通環境の充実								
基本事業	03 移動交通手段の充実								
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金	政策的補助

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

生活バス路線事業者

手段（事務事業の内容、やり方）

1. 「北海道生活交通路線維持対策事業費補助金交付要綱」に基づき、廃止代替路線に対し道補助金の交付に伴い補助金を交付する（道1割、江別市・当別町9割）。
2. 「江別市生活バス路線運行費補助金交付要綱」に基づき、国及び道の補助対象路線以外の赤字生活路線に対し市が単独で補助する（補助率1/2、上限額100万円、要件：運行回数1日1回以上、輸送量5人以上150人以下、運行キロ数10km以上）。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・生活バス路線の運行・維持
- ・交通弱者の移動の利便性が確保される。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	バス路線数（系統数）	系統	35	34	32	32
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	3,612	3,843	3,997	3,952
活動指標2	補助対象バス路線数	路線	3	3	3	3
成果指標1	バス路線の廃止数（系統数）	系統	0	1	2	0
成果指標2						
事業費(A)		千円	4,037	6,593	3,997	3,952
正職員人件費(B)		千円	2,408	12,024	2,344	2,347
総事業費(A+B)		千円	6,445	18,617	6,341	6,299

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	バス路線運行費に対し補助金を支出	バス路線運行費への補助金 3,997千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
国・道との協調補助。平成13年度より、市単独補助要綱の制定。	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度にバス路線調査を実施し、バス路線の現状と今後のあり方等について検討を行った。 ・18年3月に、江別一当別間の札幌第一観光バス路線が廃止となったため、18年4月より当該路線に代替交通手段として、下段モータース（貸切バス事業者）による乗合バス運行を行い移動交通手段を確保した。 ・平成20年4月から北海道中央バスが市内バス路線の統廃合による再編を行った。 	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由根拠 通勤・通学者、高齢者、病気や身体に障がいをもつ方々にとって公共交通機関であるバスは市民の足であり、生活交通路線としてのバス路線を維持・確保するため、市が一部助成するのは妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由根拠 赤字バス路線に対し補助金を交付することにより、バス事業者の負担を軽減し、安定したバス運行を行うことができることから、移動交通手段の充実に対する貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由根拠 補助金により、バス路線の維持確保につながっていると判断しているが、バス利用者数の減少が進んでおり、路線の維持がさらに難しい状況にある。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由根拠 増加傾向にある赤字額、赤字路線により現状のバス路線が廃止にならないよう維持に努めているが、現在の補助制度は赤字対策であることから、路線の増加と直接的な関係がない。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由根拠 生活バス路線の赤字額が増加傾向にある中で、補助金を削減することはバス路線の廃止に直結する恐れがある。